

## 令和4年度熊本県栄養士会秋季研修会(報告)

主催 (公社) 熊本県栄養士会

日時 令和4年11月15日(土) 12:30~16:30

会場名 熊本県医師会館2階大ホール

### ◇『貧困がもたらす栄養格差 ～現状とどう向き合うか～』

講師:新潟県立大学人間生活学部 健康栄養学科 教授 村山 伸子先生

村山先生のご講演を経て、世帯の経済状況と子どもをとりまく食環境には大きな関連性があることを学びました。それは、必要栄養量の充足率だけでなく、料理の種類、食材のバリエーション、保護者の食知識などと関連していることをお話しいただきました。

また、世帯収入の差で群分けすると、給食のある平日と給食のない休日では群間においていくつかの栄養素の摂取量に差がみられたことも知りました。それは、乳幼児の体重増加不良や12~18歳の肥満に影響しているとのことでした。

その対策として、社会経済対策はもちろんのこと、食環境への直接的な対策としては、食育の一環である学校給食が欠かせず、また、いわゆる「子ども食堂」の活用や、フードバンクの推進が挙げられるとのことでした。

今回の参加形式は、会場とオンラインとのハイブリッドで行われたことから多くの方にご参加いただき、会場74名、WEB47名の出席でした。

ご講演頂きました村山先生、誠にありがとうございました。

### ◇『シンポジウム ～熊本の現状とこれから～』

#### ①子どもへの関り

(株)はぐくみ代表取締役 栄養士 野村 順子 氏

#### ②高齢者への関り

熊本市中央3地域包括支援センター ささえりあ子飼 社会福祉士 田口 善信 氏

野村先生からは、兼ねてより活動されていた様々な子ども食堂の様子や、活動方針、今後の展望などをお話しいただきました。地域の様子や抱えている課題は地域ごとに異なっており、それに合わせた子ども食堂の形があること、また、それに携わる運営スタッフや食材を提供して下さる方々、利用する子どもや大人との関わり方も様々であることなどを伺いました。

田口先生からは、野村先生と同じく地域の課題を踏まえて活動されていることをお話しいただきました。その課題は確かな情報を基に見出されており、課題から描く地域の将来像は具体的で地に足のついた活動をされていることを知りました。

地域には、子どもから高齢者まで生きていくために必要な“食”の課題が多くあることがわかりました。私たち管理栄養士・栄養士として地域との関わりを持ち、食の専門職としての役割を果たしていけたらと

思います。

最後に、先にご講演いただいた村山先生を交えて3者の先生方の意見交換を経て、無事に研修会を終えることができました。

先生方、貴重なお話をいただきありがとうございました。

また、今年は3年ぶりに秋季研修会時に熊本県栄養士会賛助会会員の方々の商品展示を行いました。今回は、21社の賛助会の方々にご参加頂きました。例年よりも少し規模が小さく、試食や試飲ができませんでしたが、多くの会員の方々に様々な商品をご紹介いただきました。

賛助会会員のみな様、ありがとうございました。



【講演の様子】



【シンポジウムの様子】